

【B年】

聖霊降臨後第二四主日

特定二六

全能の神よ、あなたは独りのみ子を与えてわたしたちの罪の
いけにえとし、また清い生涯の模範とされました。どうか深く
感謝してその計り知れない恵みを受け、常に力を尽くしてみ跡
を踏むことができますように、主イエス・キリストによってお願
いたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は申命記第六章一節から」

1 これは、あなたたちの神、主があなたたちに教えよと命じ
られた戒めと掟と法であり、あなたたちが渡って行って得る

土地で行うべきもの。2 あなたもあなたの子孫も生きている限
り、あなたの神、主を畏れ、わたしが命じるすべての掟と戒
めを守って長く生きるためである。3 イスラエルよ、あなたは
よく聞いて、忠実に行いなさい。そうすれば、あなたは幸い
を得、父祖の神、主が約束されたとおり、乳と蜜の流れる土地
で大いに増える。

4 聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。5
あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなた
の神、主を愛しなさい。

6 今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、7 子供た
ちに繰り返し教え、家に座つているときも道歩くときも、寝
ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。8 更
に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、
9 あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一一九編 一〜八節

1 幸せな人、道からそれず＝ 主の教えに従って歩む人

- 2 その諭しをとがなく守り＝ 心を尽くして神を求め
- 3 悪に走ることなく＝ 神の道を歩む人
- 4 あなたの定めをよく守るようにと＝ 神よ、あなたはわたしに命じられた
- 5 あなたのおきてを守るために＝ わたしの歩みを支えてください
- 6 あなたの勧めを前にして＝ 恥じ入ることがないように
- 7 あなたの正しい審きを知り＝ わたしは素直な心で感謝する
- 8 あなたの正しいおきてを守るわたしを＝ 決して見捨てないでください

使徒書

朗読者 「使徒書はヘブライ人への手紙第七章二十二節から」

22 このようにして、イエスはいつそう優れた契約の保証と
 られたのです。23 また、レビの系統の祭司たちの場合には、死
 というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、
 多くの人たちが祭司に任命されました。24 しかし、イエスは永遠
 に生きているので、変わることはない祭司職を持っておられる
 のです。25 それでまた、この方は常に生きていて、人々のため
 に執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たち
 を、完全に救うことができになります。

26 このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、
 もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたち
 とつて必要な方なのです。27 この方は、ほかの大祭司たちのよ
 うに、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえ
 を献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ
 一度、御自身を献げることによつて、成し遂げられたからです。
 28 律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後
 になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる
 御子を大祭司としたのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」
 会衆 「また、あなたとともに」
 司祭 「聖マルコによる福音書第十二章二十八節以下に記さ
 れた主イエス・キリストの福音。 主に栄光」
 会衆 「主に栄光がありますように」

28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」32 律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。33 そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」34 イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」